

中学生と市長との意見交換会実施報告

令和6年1月に施行した大牟田市子ども・子育て応援条例では、子どもに係る施策を実施する際に子どもの視点や意見を反映することを市の責務と規定しています。子どもたちの思いや考えを直接聞き、施策へ反映していくために「中学生と市長の意見交換会」を開催しました。

日 時：令和8年8月6日（木）13:30～15:30

場 所：大牟田市庁舎北別館4階 第1会議室

参加者：大牟田市内の全中学校の生徒 24名（各校から2～3名が参加）

内 容：次の2つのテーマについて、班ごとに参加者が事前に考えてきた意見をまとめて発表し、発表された内容について市長と意見交換を行った。

①「10年後も住み続けたいまちにするためにやってほしいこと・やりたいこと」（A～C班）

②「子どもの意見を広く集めるために有効な取組とは

～“こどもいつでも意見箱”の活用方法や新たな手法の検討～」（D～E班）

各班から出された意見

①「10年後も住み続けたいまちにするためにやってほしいこと・やりたいこと」（A～C班）

A 班

住み続けたいポイント	住み続けるには不安なところ
・ショッピングモールがある ・公共交通機関がある	・空き家、廃校が多い ・子育てへの支援が少ない



もっと良くするには	不安なところを解消するには
・ショッピングモールに新しい店を入れてほしい ・小さい子が遊べる夏も涼しい施設をつくる ・公共交通機関の本数を増やす	・空き家を子どもが預かることができる施設にして親の負担を減らす



アイデアを実現するために（市役所にやってほしいこと/保護者・学校・地域企業にお願いしたいこと/自分たちにできること）
・市民から欲しいお店のアンケートを取る ・人を呼び込むために SNS などで宣伝する ・空き地を有効活用して交流ができる施設をつくる ・子どもを預けるために人を集めてほしい

B 班

住み続けたいポイント	住み続けるには不安なところ
・大蛇山がある ・交通の便が良い ・市の小中学校が SDG s に取り組んでいる	・少子高齢化が進んでいる ・道路がデコボコで通りにくい ・一部の公園の老朽化



もっと良くするには	不安なところを解消するには
・冬にも大規模なイベントをする ・大蛇山の屋台に小中学生が参加 ・大蛇山に全国からボランティア募集 ・海外留学の支援→空港があればいいな	・減災を呼びかける



アイデアを実現するために（市役所にやってほしいこと/保護者・学校・地域企業にお願いしたいこと/自分たちにできること）	
・諏訪公園でどんと祭りをひらく ・企業と協力して耐震調査をする ・少しずつ道路をきれいにする ・災害が起きた時のためにも普段から地域の人と積極的に会話をしておく	・普光寺の近くの山に臥竜梅を植える ・新栄町の商店街を復活させる ・企業に託児所をつくる

C 班

住み続けたいポイント	住み続けるには不安なところ
・たくさんの祭りやイベントがある ・世界遺産がある	・空き家が多い



もっと良くするには	不安なところを解消するには
・SNSなどで他の町の人に発信していく ・観光客を増やすために大きいイベントを開く ・バスでみやま・柳川方面に行けるようにする	・閉校した学校を活用し、お店や遊べる場所（キャンプやアスレチックなど）を作る ・空き家を活用して、子どもを預かれる施設をつくり、地域交流ができるようにする



アイデアを実現するために（市役所にやってほしいこと/保護者・学校・地域企業にお願いしたいこと/自分たちにできること）	
・道の駅や観光プラザなど地域の中で子どもを一時的に預かってもらいえるところをつくってほしい ・バスを増やしてほしい	

その他の意見

【住みたいポイント】

- ・大型商業施設（ゆめタウン・イオンモール）がある
- ・世界遺産がたくさんある
- ・大蛇山まつりや初市などの伝統行事がある
- ・公共交通機関がある
- ・地域の方との関係がある
- ・市民に大人気のジャーフがある
- ・緑豊かな動物園
- ・公園がたくさんある
- ・大牟田名物（ラーメンなど）
- ・伝統芸能
- ・家族や友人が近くにいる
- ・交通の便が良い
- ・都会に比べて自然が多い
- ・事故が少ない
- ・市内の学校で SDG s に取り組んでいる
- ・進学先がたくさんある
- ・公民館がある

【不安なところ】

- ・少子高齢化が進んでいる
- ・環境問題（川の汚染・ゴミ）
- ・治安が悪い
- ・昔から受け継がれてきた大牟田発祥の飲食店が減っている
- ・豪雨による被害
- ・道路がぼこぼこで危険
- ・大型商業施設までの移動手段が限られている
- ・公共交通機関の本数が少ない
- ・地域コミュニティの減少で人々のつながりが減る
- ・大きな地震が来たらいろいろな建物が崩れそう
- ・世界遺産の観光客の減少
- ・新栄町の商店街が寂しすぎる
- ・働く場が減り他市や他県に若者が流出する
- ・過疎化が進んでいる
- ・大牟田の PR できるものがない
- ・水害が多い
- ・10 年後まで大蛇山が続いていくのか
- ・働きたいと思う企業が少ない
- ・手鎌地区に食品を扱う商業施設が少ない

【もっと良くするには】

- ・若者が楽しめる場所（室内遊園地など）を増やす
- ・お店を呼び込む
- ・相談窓口などをつくる
- ・世界遺産の良さをもっと広げる
- ・大牟田にたくさんの人に来てもらう
- ・大牟田の魅力をほかの地域の人にも知ってもらう
- ・屋台を増やす
- ・地域でのかかわりを増やす
- ・バスの高齢者割の制度を作り利用者をさらに増やす
- ・多言語での標識にジャーフを載せる
- ・道をきれいに広くする
- ・ESD 教育を続ける
- ・他県からの生徒も呼ぶためにアピールする
- ・減災のためにも地域のつながりをもっと増やす
- ・減災についてポスターなどで呼びかけ

【不安なところを解消するには】

- ・若者も楽しめるイベント（防災教室・キッチンカー）
- ・地域交流ができる場所をつくる
- ・子どもを預けられる場所（買い物の間など）をつくる
- ・大牟田の良いところを宣伝する
- ・昔からの店を受け継げるように若者を増やす
- ・もっと育児しやすい場所にしたら人口がもっと増える
- ・地域で集まってゴミ拾いをしたり川をきれいにしたりする
- ・冠水を抑える
- ・大蛇山 T シャツを買う人を増やす
- ・全国から大蛇山のスタッフを募集し、大蛇山のことを多くの人に知ってもらう
- ・有名な企業の支店を大牟田に呼ぶ
- ・子育ての良さを伝える
- ・出会いの場を作る
- ・様々な地域から遊びに来られるような施設をつくる
- ・移住者へのサポートを手厚くし、移住若者を増やす
- ・新栄町の再開発
- ・減災を呼びかける劇を作り SNS で発信
- ・おおむた減災ブックをつくりクイズ形式で関心をもってもらう
- ・特産品を使ったレシピコンテストをする
- ・大牟田の飲食店で世界遺産見学お得券をプレゼント

【アイデアを実現するために・・・】

○市役所をお願いしたいこと

- ・育児しやすい環境をつくってほしい
- ・出産費用を安くする
- ・企業に託児所をつくる
- ・地域で集まって活動する時間をつくってほしい
- ・大牟田が盛り上がるイベントを増やしたい
- ・花火大会を開催してほしい
- ・企業を大牟田に呼ぶ
- ・道路をきれいにする
- ・案内標識を増やしてほしい
- ・普光寺の近くの山に臥龍梅を植える
- ・新栄町の商店街を復活させてほしい
- ・公園と海辺の整備

○保護者、学校、地域企業などをお願いしたいこと

- ・企業と協力して市民がどんな店が欲しいか調査
- ・大牟田の食文化（高菜、ラーメンなど）の職場体験や講話
- ・バスの高齢者割をつくる

○自分たちでできること

- ・積極的に近所の方とお話する
- ・大牟田の人が優しい人だと思ってもらえるように人助けをする
- ・地域の行事（大蛇山など）に参加して貢献する

②「子どもの意見を広く集めるために有効な取組とは

～“こどもいつでも意見箱”の活用方法や新たな手法の検討～」(D～E班)

D 班

今、子どもの意見が大人や社会に届きにくいのはなぜ？
・大人からの「まだ子どもだから」という先入観から意見が取り入れられなかったり、発言の場が少ないから ・今の政治について知らない人が多いから ・子どもが少ないから意見が少ない ・大人に決定権があるから



意見を出しやすくするには何が大切？
・子どもが意見を言える環境をつくる ・今の社会について、子どもにももっと知ってもらう



子どもの意見が社会に活かされるためにどんな仕組みが必要？ (市役所にやってほしいこと/保護者・学校・地域・企業にお願いしたいこと/自分たちでできること)
・子どもと大人が対等な立場で意見を出し合える場をつくる ・学校で今の社会について学べる授業を取り入れる ・タブレットを活用して意見を出し合う ・子どもが積極的になることで、大人と子どもで協力して取り組む

E 班

今、子どもの意見が大人や社会に届きにくいのはなぜ？
・意見を伝えられる環境や機会が少ないから ・子どもは大人に比べて経験や知識が少ないから ・大人が子どもの本音をあまり聞かないから ・意見を言っても「どうせ変わらない」という諦め



意見を出しやすくするには何が大切？
・否定されずに安心して意見を言える環境をつくる ・タブレットでのアンケートをより多く実施する ・市の理想コンテスト（予算の範囲内で各学校から意見を出し、アンケートで一番よかったものを実現させる）を開催する



子どもの意見が社会に活かされるためにどんな仕組みが必要？ (市役所にやってほしいこと/保護者・学校・地域・企業にお願いしたいこと/自分たちでできること)
・採用された意見は報告したり、できなかった事は理由まで述べて、どう活かされたかわかる仕組みづくり ・校則について話し合ってみるなど、身近な決定事項に生徒の意見を反映させる仕組みづくり ・日常の不満を提案に変える

その他の意見

【今、子どもの意見が大人や社会に届きにくいのはなぜ？】

- ・大人の意見が正しいことが多いから
- ・届かないことが当たり前だと思っているから生活の中で問題点をあまり考えないため
- ・社会の中心が大人だから
- ・大人達も子どもと話し、意見を交わす体験が少ないため、子どもの気持ちがわからないから
- ・意見をどこに伝えればいいのかわからないから
- ・意見を伝えて社会に活かすシステムが整っていないから

【意見を出しやすくするには何が大切？】

- ・今の太宰府について子どもにもっと知ってもらう
- ・みんなが意見を出しやすい環境づくり
- ・地域で交流する場をつくる
- ・大人が聴く姿勢をとって意見の出せる場を設ける
- ・子どもが意見を言えて当たり前という風潮にしていく
- ・意見を匿名で出せるようにする
- ・意見を出す場で「子ども」「大人」と区別しない
- ・学校の授業などで意見を出し合う時間を設ける
- ・思ったことを思ったときに伝えられるシステム
- ・大人と子どもと一緒に本気で話し合えるようにする
- ・市長が学校を訪問して直接子どもの要望を聞き取る
- ・身近な場所で意見を言える環境づくり
- ・子どもがやりたいと思えるような取組をつくる

【子どもの意見が社会に活かされるためにどんな仕組みが必要？】

- ・子どもにも同意権、拒否権を与えてほしい
- ・市全体で直接話し合う場をつくる
- ・意見が出せる場を増やし、子どもの意見を反映させる
- ・学校のタブレットで月に一回程度アンケートをとる
- ・zoomを利用して、太宰府市内の中学校や高等学校の生徒会執行部が話し合いできる機会をつくる
- ・大人が動くのを待たず、積極性を持つ
- ・大人と子どもで協力してしっかり取り組む
- ・子ども主体の議会を定期的に開催する
- ・意見交換会などの市内での取組をたくさんの人に知ってもらう必要がある
- ・小学生にも意見交換会の場をもうける
- ・地域のイベントや企業の商品開発、企画などに、子どもモニターとしての意見を取り入れる
- ・市役所だけでなく、病院や警察などにも子どもの意見を伝えられる場を設ける
- ・市内での取組をたくさんの人に知ってもらうためにSNSで取組を発信する
- ・まずこの意見交換会での意見を真剣に聞いてもらいたい